

関西大学工学部「文章論入門」(2006年度春学期) 指導の実践報告

小 伏 志 穂

1、はじめに

本稿は、関西大学工学部「文章論入門」(2006年度春学期)の実践報告である。筆者は、1999年度より継続して教養科目「文章論入門」(工学部)を担当させていただいている。この年は、大野晋氏の『日本語練習帳』(岩波書店、1999・1・20)がベストセラー入りを果たすなど、一般に国語表現に対する関心が芽生え始めていた時期である。

筆者が担当するにあたり、科目目標は「学生がまともな文章を書けるように指導すること」、具体的な内容としては「文章を書く練習をさせること」とうかがったが、テキストの指定はなく、他学部担当者との統一性をもたせるとの指示もなかったため、初年度は戸惑うことも多く、試行錯誤を繰り返した。

まず初回の授業では、学生の文章とはどのようなものである

のかを知るため、「この科目を履修した理由」という題で自由に文章を書いてもらった。その中に、

うまく書けるコツを教えてください。

という率直な一文があった。うまく書きたい。その学生の要望に、いかに応えてゆくか。担当8年目となった今、当科目の現状を報告し、今後の国語表現指導に役立てたい。

以下、2006年度春学期の科目目標・講義概要・評価方法をシラバスに沿って述べた後、各回の講義テーマの内容(指導方法・復習のポイントなど)を説明し、最後に春学期全体の成果と問題点および今後の展望を述べる。

2、2006年度春学期の科目目標と講義概要

当科目のサブテーマは「苦手意識をなくそう」とした。この

テーマは、2001年度より継続して掲げている。それ以前は「明文を書く」としていたが、科目名「文章論入門」の「論」に講義内容の難しさを感じると学生から指摘があり、基本的な日本語リテラシーの獲得を目指す授業であることを分かりやすくするため、変更した。

以下に、シラバスの「講義概要」・「講義計画」・「成績評価の方法」の項目を引用して講義の方針を示す。

「講義概要」は、

親しい友人とのメール交換は楽しいものである。メールの普及により、私たちが「文章」で情報を伝え合う機会が増えていく。しかし、あなたの文章は、思いつくままを書きなぐっただけではないだろうか。まずは、文章の基本の「型」を身につけることが大切である。「型」を知り、そこから「型破り」な自分らしい表現を見つけてみよう。

とした。「オンリーワン」がもてはやされている現代においても、仲間内にしか通じないような文章や話し言葉そのままの文章は、個性的な文章とは言わない。誰にも誤解なく読まれ、その上で筆者の気分までもうまく伝えられるような表現を目標としつつも、大学生になつたばかりの受講生にとっては、まずは「型」をなぞることが大切であると考ええる。

また、「講義計画」は

日常生活のさまざまな場面を想定し、主に実用的な文章を書く。

手紙文・案内文・掲示文・解説文・宣伝文・メール文など、ある程度定まった形式のある文章を中心に練習する。

いずれの課題も、要点説明の後に実際に作文し、講義時間中に提出する。

後日、提出された文章から例文集を作成して配布し、復習する。

とし、内容は、1年次配当科目であることをふまえ、大学生として社会常識を心得た文章力を身につけてもらえるような実用文を中心に練習できるものにした。講義時間中に書いた文章の講評は後日行うことになるため、継続的に出席しなければ書きっぱなしで身につかない。よって、「成績評価の方法」では定期試験を行わず、出席・受講態度・小テスト(最終講義日に実施予定)で総合評価する。

添削のため、授業中に書いた文章を毎時間回収するので、継続的な出席が必要。

と、単位取得には出席が重要であることを示した。

教科書は使用せず、市販の国語表現関連書などを参考に再構

成したプリントを使用した。また、受講生が提出した文章をもとに作成した文例集を生きたテキストとして用いた。この文例集は、受講生の参考になるような良い例・悪い例の両方を採用し、提出課題をそのまま印刷するのではなく、文章自体は原文のまま、パソコンで活字化したものである。活字化の利点は、文字が読みやすくなる・自分の文章も客観的に読めるようになる、などの他に、「次は自分も資料に載ってみたい」という意欲をもたせる効果もあった。採否は「例」として適切かどうかによって決定しているので、可もなく不可もなしと判定したものは載せない。資料配付時に学生の間から聞こえてくる「オレ、載ってる。」というささやきをモチベーションに変換して、「良い例」として紹介されることを目標に取り組んでもらえれば、と考えている。

3、各回の講義内容

授業の各テーマは、次の3種類に分けられる。

A・日常生活の場面を想定した実用文を練習する課題

例・手紙文・ビジネス文書・メール文・道順説明文

B・国語表現の基本ルールを知る課題

例・現代仮名遣い・送り仮名・文字の使い分け・句読点・

類義語・文の乱れ・あいまいな文・書きことばと話しことば

C・言語遊戯的な作文に挑戦する課題

例・オリジナルのクロスワードパズル作成と語句説明
文・アナグラム俳句(川柳)・レトリックを用いた関
西大学工学部の広告文

受講生が継続して出席することを前提としているので、資料の準備や時間配分を考慮して、ABCを順不同で実施した。以下に、それぞれの実施方法と各テーマのポイントを述べる。

なお、2006年度春学期の受講登録者は50名(すべて1年次生)、各時間の出席者は平均47・5名であった。

3-1、A・日常生活の場面を想定した実用文を練習する課題

まずそれぞれの特徴と書き方を、例文を示しながら説明した後、実際に書かせて回収、添削を行った。学生の文章の中からいくつかを選んで文例集を作成し、解説した。

3-1-1、手紙文

[目標]

縦書き手紙文の一般的な形式を知り、相手のことを思いやつた文章を書く。相手に合わせて、適切な時候のあいさつ文を考えたり、敬語表現を用いたりする練習を行う。

〔指導〕

手紙文の一般的な形式を整理したプリントを配布し、前文や後付の意味と書き方を講義した。頭語と結語の組み合わせ・時候のあいさつ・安否のあいさつなどの文例を表にしたものを載せ、相手に合わせて適切なものを選ぶよう、解説を加えた。また、例文として「工場見学のお礼」・「高校時代の恩師への近況報告」を掲載した。これまでの指導において、マス目のない用紙に手書きで書く場合の字配りがうまくできないことと、「拝啓」の文字に書き間違いが生じやすいことが分かっている。^(注)よって、執筆直前にも、読み手のことを考えて全体の視覚的なバランスを美しくし、とくに「拝啓」の漢字の書き誤りをしないよう注意を促した。

〔提出課題〕

テーマは「高校時代の恩師への近況報告手紙文」とした。目上の相手を想定することで、形式をふまえた丁寧な手紙文を心がけ、敬語表現を用いる練習も行う。用紙は最も一般的なB5縦罫の便箋と同形式のものを使用し、分量は内容や文字の大き

さに応じて1〜2枚に収めること、また、近況は実情に即して述べ、日付は講義当日とする、などの条件をつけた。

〔添削〕

実施したのが第3回目（4月26日）の講義時で、まだ慣れていないこともあってか、例文の一部を変えて写しただけのような無難な文章が多く見られた。全体のバランスの悪いものや、語の途中で不用意な改行を行っているもの、敬語の不適切なものなどを訂正した。

〔復習〕

学生の文章を8例取りあげ、解説した。時候のあいさつは、「相手のことをよく考えて」という注意を意識したのか、

- ・プロ野球も開幕し、阪神タイガースファンにとっても一喜一憂の季節がやってきました。

のような、ややくだけた内容をうまく採り入れているものが多く見られた。しかし、安否のあいさつの部分で

- ・先生もいよいよご壮健の趣、大慶に存じます。

など丁寧すぎる表現を用いたものがあり、他の部分の文章と合っていないのがおかしいし、かえって慇懃無礼な態度と受け取られる恐れがある、などの点を注意した。

3-1-2、ビジネス文書

〔目標〕

ビジネス文書の一般的な形式を知る。

〔指導〕

手紙文との違いを確認しながら、文書の形式を中心に解説した。プリント掲載の例文は「旅行会のお知らせ」とした。また、このような案内文書に付されることの多い返信ハガキの書き方を示した。

〔提出課題〕

テーマは「同窓会のお知らせ文書」とした。配付資料の例文とは内容が異なり、例文の一部を変えただけでは書けない。書く内容が思いつかないと作文練習にならないので、自分が同窓会の幹事であると仮定し、文中に、この時期に同窓会を開催することにした理由・同窓会で行うイベントの内容・恩師の出欠の3点を書くことを条件とした。もちろん架空の文書であるため、内容は常識の範囲で創作したものとなる。字数制限はないが、近年ではA4が主流になっていることを断った上で、B5横罫20行の用紙にバランス良く収めて書くよう指示した。

また、後日この課題を執筆者とは別の学生に読んでもらい、その「同窓会のお知らせ」を受け取ったと仮定して、返信ハガ

キの記入練習を行った。

〔添削〕

内容の条件とした3点がうまく文中に入っているか、恩師に対する敬語が適切か、を中心に確認した。

〔復習〕

学生の文章を11例取りあげた。例文を参照できなかった部分が難しく、

- ・担任だった〇〇先生は、息子の授業参観で来れないようです。

- ・〇〇先生が産休に入るので、

など、恩師に対する敬語の不適切な点を訂正した。また、

- ・元3年5組担任のギタリスト、〇〇先生のゲストライブも企画しています。

に対する返信に

- ・〇〇先生のゲストライブをととても楽しみにさせていただきます。

としたものがあり、返信には出欠の連絡だけではなく、案内の内容に応じたメッセージを入れるとよい、と紹介した。

他の受講生の文書に対して実際に返信を書いてみることで、文章の先に見える「相手」を意識させるといふねらいもある。

3-1-3、メール文

〔目標〕

日常生活で使うことの多くなったメールでの、問い合わせや
 お願いの文章を相手に応じて書き分ける。

〔指導〕

解説用プリントでは、「ゼミ仲間にコンパ開催を知らせるメール」・「サークルに活動内容を問い合わせ、入会の意志を伝えるメール」・「指導教授に所蔵図書借用をお願いするメール」の例文について、どのように書くのが好ましいかを解説した。

〔提出課題〕

テーマは次の3題とした。

①出席点を重視している科目の授業を入院によって欠席することになってしまったが、卒業にかかわるのでどうしても単位を取得したい。授業担当教員に対してメールで事情を説明せよ。

②試験10日前になったが、ほとんどノートを取れていない科目がある。そのノートを貸してもらえよう、他学科の知人にメールでお願いせよ。

③夏休みに、リゾート地のペンションでアルバイトをした。友人の父親の知人がペンションを経営していること

が分かったので、その経営者に直接メールで問い合わせよ。

字数制限はとくに設けなかったが、B5横罫20行×2の用紙に3テーマとも収まるくらいに書くよう指示した。

また、作文するとともに、それぞれのメールにおいて気をつける点（作文にあたって工夫した点）を書かせた。

〔添削〕

①は、自己紹介（学籍番号・氏名や履修している科目名）がきちんとできているか、敬語の用い方は適切か、誠意ある書き方になっているか、などを確認した。②は、受信者が「友人」ではなく「知人」という設定なので、アドレスを知った経緯やノートを取れなかった事情など、「貸してください」以外のことをどのように書いていたかを見た。このテーマは同級生へのメールなのでわざとくだけた表現を用いた例が多く、文章の訂正は行わないこととした。③は、未知の相手への自己紹介ができていないか、アルバイトをしたいという熱意が伝わる表現になっているか、などにも注意した。

〔復習〕

①②③合わせて12例の文章を取りあげた。①の工夫点として、自己紹介をすること・敬語を用いることは、ほとんどの学

生が挙げていた。その他、出席点の代わりとなるレポート提出などの課題を与えてもらうことをお願いするものが多かった。

②では、

・勉強しとるんやけど、正直困ってます。

(工夫点・いちおう勉強しているように思わせる。)

・〇〇君のノート字がきれいですごく見やすいって評判やから明日見してくれへん？

(工夫点・誉めて貸す気にさせる。)

など独自の工夫点が示された例があった。

③は、より複雑になるよう、メールの相手を「友人の父親の知人」という設定にしたため、

・〇〇さんの父に聞き、△△さんのペンションで夏期にアルバイトを雇っているとうかがい、自分もペンションでアルバイトをしたいため、このようなメールを出させていただきました。

・大学の友人である〇〇さんが、〇〇さんの父の知り合いの△△さんが軽井沢でペンションを経営しているらしく、毎年夏休みに学生アルバイトを雇っているという話を聞いて連絡させていただきました。

と、待遇表現や関係説明に苦戦した跡が見られた。内容では、

・リゾート地でのアルバイトは未経験ですが、人と接することが好きなので、とても興味があります。

・私は一度リゾート地でアルバイトをしたいと考えていました。それは様々な地域の観光客の方々とお話することが出来るからです。

など、作文条件外のこともうまく盛り込んでアルバイトの意志を伝えた例があった。

3-1-4、道順説明文

〔目標〕

目の前にある物の様子を、客観的により正確に文章化する。

〔指導〕

任意の図形を書かせて、その様子を文章化させた年度もあったが、適度に複雑で適度に文章化しやすいような図形を書くことが難しく、作文以前の問題が多いと判断し、地図を書かせてそれを文章に起こしてみる課題とした。

作文の下準備として、まず、それぞれの自宅から最寄り駅までの地図を書いてもらう。作図にあたり、その地図を文章に起こすのだからあまりにも複雑な場所は適当に簡略化するように注意した。地図が適切でないと作文の練習にならないので、地図

回収時の確認作業は丁寧に行う必要がある。

〔提出課題〕

別の学生が書いた地図を見て、その内容を「駅から自宅まで」の順に文章化させた。

〔添削〕

回収した文章を、さらに別の学生にあたるよう配布し、まず文章によって地図を再現させた。地図を書きながら、文章をどのように書けば分かりやすい、あるいは分かりにくい、ということを実際に体験できる。いちおうの地図が書けたら元の地図を見て、その文章が地図を正確に説明しているかを点検させた。学生同士で添削し合う機会とし、とくに訂正がない場合も、よいと感じた箇所を指摘するなど、何らかのコメントを書くこととした。

〔復習〕

主観的な表現と客観的な表現の違いに注意を促した。「広い道をしばらく進むと右手に銀行が見える」といった表現を正確に図にするのは難しい、ということを経験できたはずである。工学部生が「液体Aの温度が少し上がってきたら薬品Bを多目に加える」のような客観的でない書き方しかできないと、危険である。

3-2、B・国語表現の基本ルールを知る課題

簡単な例題と解答を示しながら、文章を書くときに気をつけたい問題点を紹介した後、同テーマの問題演習に取り組みせ、回収した。日を改めて返却し、解答解説を行った。

3-2-1、仮名遣い・送り仮名に気をつけよう、文字の使い分けを考えよう

まず、四つ仮名の使い分けや送り仮名について、間違いやすい例を挙げた。送り仮名に関しては、「行う(本則)」と「行なう(許容)」があるが、パソコンの変換システムでは初期設定が「本則に従う」となっているため変換候補に「行なう」が見られない点などを紹介した。

また、固有名詞は特別な決まった書き方があり、例えば「いすゞ自動車」・「キャノン株式会社」であるかと思いついて入っているような会社名も、正しく「いすゞ自動車」・「キャノン株式会社」と表記しなければならない点にふれた。このとき、携帯電話で調べていた学生が「キャノン」に「キャノン」の変換候補があることを発見し、納得していたようであった。

文字の書き分けに関しては、漢字表記できるものをすべて漢字で書くのが優れているのではなく、読み手のことを考え、伝

えたいことをより正確に伝えるためにどのような表記を用いればよいかを判断して書くよう、注意した。また、形式名詞や補助用言は平仮名表記が一般的であることを紹介したが、長い文章を書く場合、この点に配慮しつつ書いてゆくことが、学生にとってはかなり難しいと思われる。

使ったモノは元のトコロに戻してください。

彼の長所は、友達に対して優しいトコロです。

対戦相手は、とても強いというコトだ。

などの例文を検討するときは、ほぼ正確に書き分けることができたが、長文の実践では

・同窓会を開催する事となりました。今回は、成人式終了後に担任の〇〇先生も交えて、食事をする事になっております。

と、不用意な書き分けが目立った。

3-2-2、句読点の位置につけよう、同音訓異義語・類義語を正確に使う

犯人はスポーツ選手で足の速い中田さんに追いかけられたなど、句読点の位置によって意味が変わってしまう例文を紹介し、また、

三代將軍徳川家康の孫家光は幼名を竹千代といった

も、「三代將軍」徳川家康」とも読めてしまうおそれがあり、読点の位置が重要であることを確認した。

類義語では、「洗濯物を干す。」「洗濯物を乾かす。」「干した魚。」「乾かした魚。」などの言い方について、不適切なものはどれかを検討した。

3-2-3、文の乱れに気をつけよう、あいまい表現をなくそう
係り受けの関係で成分が不足している文や、副詞に対応する語がおかしい文などを訂正した。

わたしは去年より今年のほうが暑いようだ。

事故に遭った乗組員のうち、たった2人しか助かった。

などの訂正はよくできていたが、

このサークルは、同じ趣味をもつ人たちが集まって、空き時間を楽しんでいたかどうかというものです。

の誤りには気付きにくいようであった。

また、

彼は出かけていなかった。

など、文法的には誤っていなくても読み取りに誤解が生じる可能性のあるあいまい文の書き直し練習に取り組んだ。

3-2-4、話しことばと書きことばの違いに気をつけよう

やっぱり夏は暑い。

サークルには入ってません。

など、つい書いてしまいがちな表現に注意を促した。

また、

雨が日曜日に降った。／日曜日に雨が降った。

展示会が公園である。／公園で展示会がある。

など語順を入れ替えた例文を示し、文字で書かれた文章として読むとき、読みやすいのはどちらかを考えた。話すように自由に書くことも大事だが、口から出たままを書いて伝わるのか、語順にも気をつけるよう促した。

3-3、C・言語遊戯的な作文に挑戦する課題

ゲーム感覚で楽しんで取り組んでもらうための息抜き教材で、授業時間の調整を兼ねている。柔軟な発想のできる者は早く書き上げることができるが、お手本どおりの文章ばかり書いている者には、逆に難しい課題と捉えられたかもしれない。これらも、学生の作品の中から印象的なものや個性的なものを選び、「傑作選」のプリントを作成して配布した。ただし、作品についてのコメントはとくに行わなかった。

3-3-1、クロスワードパズル作文

2文字×2文字の4マスに、4文字の平仮名をあてはめる。

上下および左右の順に読んで、意味の取れる語が4通りできるような4文字をあてはめなければならぬ。この4マスのパズルを3組作成し、それぞれの語(合計12語)を解説する文章を40文字以内で書くこととしたが、時間内にパズル自体を完成させることができなかつた者もあり、彼らはこの時点で語彙力の不足を実感したかもしれない。解説文は、例えば「すし」は「酔を混ぜた飯に魚介類を取り合わせたもの。」ではなく「私が食べるときはいつも回っているもの。」など、自分の体験に即したものにすると、という条件をつけた。

実際にパズルとして取り組んでみるとなかなか難しい作品が多かつたようで、解答を確認に来る者も複数いた。

3-3-2、アナグラム俳句(川柳)

アナグラムを2回行って5・7・5の俳句(川柳)形式のものを作る課題である。まず任意の5音の語を第1句とする。その5音の並びを組み換えて任意の2音を足して第2句とする。第3句は第1句を組み換えた5音で作る。全体の意味はナンセンスでもかまわないとして、5句を目標に作らせた。

展示会 次回展示は イカ展示

といったほとんど変化させていないものから、

ナイアガラ 愛が無いから 上がらない

ナイアガラ あれがないから 上がらない

と非常に類似したもの、

カツサーノ サツカーの星 NO作家

のようにそれとなく意味のまとまりもあるものなど、さまざま
な発想が見られた。これも「傑作選」のプリントが配られるこ
とは学生もすでに承知しており、何の指示も出していないにも
かわらず、5句のうち自信作（と思われるもの）に丸印をつ
けて提出した者が複数いた。それを掲載して欲しいという意味
であったと思われる。

まずはこのような遊戯的な課題からでも、言葉や文章のおも
しろさを体感し、「自分も読み手を楽しませよう」という意識を
高めてもらえればよいと考えている。

3-3-3、レトリックを用いた、関西大学工学部の広告文

よく見かける広告コピーの例文を挙げ、直喩・隠喩・擬人法・
掛詞などのレトリックを紹介した。そのレトリックのいずれか
を用いて、「関西大学工学部（自分の所属学科）」の広告文を作

らせた。

・応用化学科

「Hello、知ろう、化学!!」

さあ、君も化学で世界へ飛びたつのだ！キミストーリー
のために!!

は、脚韻と掛詞を用いたらしい。また、

・都市環境工学科

「あなたの街が泣いている」

都市はあなたが思っている以上に老朽化しています。そ
んな都市を救うのはあなたです。

は擬人法を用いている。

4、春学期全体の成果と問題点および今後の展望

初回の授業で簡単な自己紹介を書かせたときは「文章を書く
のが苦手だ」という記述が目立ったが、「学生による授業評価」
アンケートの自由記述では、

・簡単そうにみえて実はむずかしい。というようなものを
たくさんして楽しかったです。そして日本語は難しいと
いうことを再確認しました。

・たまに大変なことはありませんが文を書くのはたのしいです。

と、苦手なりに楽しんで授業に参加できたという感想を書いたものが見られ、「書くのが苦痛だった」との意見はなかった。

しかし、楽しく書ければよいのか、という問題が残る。

テーマA（実用文）を中心に、それをより正確な文章で書くためにテーマB（国語表現）を割り込ませたが、Bで扱った注点をAの作文に生かせるような指導が不十分であったと思う。Aでは、文の内容は授業回数を追うことに「読み手」を意識したものへと成長したが、表現上の誤りへの気配りが足りないままとなった。添削して返した作文を、もちろん見返してはいるのだろうが、その場の反省だけで終わっているようである。今後は、まずは訂正した方がよい部分を指摘するにどうめ、学生自身に考えさせる機会を増やす必要がある。

対象が1年次生ということもあり、春学期に実用文をきちんと書けるようになれば、大学生としての社会性も身につく、自信につながると考える。身近な実用文を扱うことで学生の「伝えたい」気持ちをうまく引き出すことはできたが、その意欲と、表現技術との乖離を埋める指導を心がけた授業展開としなければならぬ。今後は、平常点重視の成績評価に加えて各テーマ

ごとの小テストを実施するなど、緊張感をもって執筆する時間も増やし、技術向上を図りたい。

以上、関西大学工学部「文章論入門」（2006年度春学期）の講義内容を報告し、問題点および展望を述べた。同様の科目を担当されている諸先生方の踏み台となれば幸いである。

（注）鍵本有理・小伏志穂「身近な題材を利用した文章表現指導（2）」（奈良工業高等専門学校研究紀要 第41号、2006・3）

（こぶせ しほ／本学非常勤講師）